

伝染性紅斑 (リンゴ病)

小児を中心にしてみられる流行性発疹性疾患で、両頬がリンゴのように赤くなることから、「リンゴ(ほっぺ)病」と呼ばれることもあります。

年始から増えはじめ、7月上旬ころにかけてピークを迎えます。5歳毎の年齢分布では、5～9歳での発生がもっとも多く、ついで0～4歳が多くなっています。

・ 潜伏期間

10～20日

・ 感染させるおそれのある期間

ウイルスに感染し、頬に発疹が出現する7～10日前から、発疹が出現するまで
※紅斑の時期にはほとんど感染力はありません。

・ 感染経路

- ・飛沫感染
- ・接触感染

・ 症状

症状がある期間：1週間前後

・頬に境界鮮明な紅い発疹が現れ、手、足(まれに胸腹背部)に網目状・レース状・環状などの発疹がみられます。

※一度消えた発疹が短期間のうちに再び出現することがあります。

・成人では関節痛・頭痛などを訴え、関節炎症状により1～2日歩行困難になることもあります。

・妊婦感染により、胎児に影響を及ぼすことがあります。

・ 治療法

対症療法

・ 予防法

・うがい、手洗い(流水と石けんで十分に行う)